

台所空間の評価に対する一考察

広島大教育 岩重博文

目的 台所空間における機能性はますます要求が強くなっていると考えられる。住宅展示場やキッチンカタログに見られる台所は様々な要求に対応したものであろうが、これらを使用する立場と設計する立場とではその評価に差が生ずるであろうか？ ここでは、これらの点に焦点をあて、従来の評価構造の研究手法にとらわれることなく分析する。多様な個人の住環境評価構造をどのような構造モデルで表現できるか、これらについての傾向を見出し、将来の設計指針とするものである。

方法 数名の被験者に基準を作らせ、多数の台所写真を分類させる。また、これらの台所に対する評価と類似度を評定させる。このデータをもとに、本調査で使用する台所写真を選定する。被験者に面接し、評価にかかわるコンストラクトを抽出する。このコンストラクトを検討し、本調査で使用する評価項目を決める。7段階評定により得られたデータを各被験者につきSAS統計パッケージで因子分析する。総合評価の傾向により類型化される被験者グループごとに同様の分析を行い、台所に対する評価構造を検討する。

結果 被験者グループ別の評価構造について次のような結果を得た。1) 主婦グループでは「個性」、「色彩」、「清潔さ」、「素材」、「使いやすさ」の順に重視している。また、現在の台所の短所を補いたい気持ちが因子として現れる傾向がある。2) 建築系学生グループでは「自然な感じ(温かみ, 落ち着きを含む)」、「明るさ」、「個性」、「使いやすさ」の順に重視している。3) 既婚男性グループでは「清潔さ」を重視している。4) 一般大学生グループは、インテリアとしての感覚で評価している。